

同窓会長挨拶



同窓会会長 御室健一郎(高16回)

盛夏の候、同窓の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃は、同窓会活動に格別なるご理解、ご協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。



発行 静岡県立浜松西高等学校同窓会
発行人 御室健一郎
題字 町田晃集
編集 同窓会報編集委員会
住所 浜松市中区西伊場町3番1号
電話 053-456-0662
印刷 (有) ケーエス企画
発行部数 15,100
部員数 浜二中卒業生 2,041名
浜西高卒業生 24,301名 (内女子5,317名)
内26年度卒業生240名(112名)

の恩師が勉強の楽しさを教えてくれた。「高校時代にとにかく本をたくさん読んだ」というお話を伺いました。そもそも「勉強」とは「強いて勉める」、すなわち「気の進まないことを仕方なく行う」ということが語源だそうですが、逆に、勉強に楽しみを見出された天野さんに、とにかく感服するばかりです。
「浜松西高の存在が誇り」という思いを強くしたところですが、私が郷土の現状を目を向けてみますと、浜松市の人口は現在およそ80万人、これが25年後には67万人にまで減少するとの予測や、静岡県の人口減少率は北海道に次いで全国ワースト2位であるとの報道が、危機感を持たざるを得ない現実でもあります。

「ふるさと創生事業」という施策が打ち出された際には、各地で温泉が掘られたり、金塊が購入されたなど、話題になったことも記憶に残っています。
「地方創生」は、単なる防犯や、新たな産業創出を図るための具体的な指針を示さるるのです。
ただ、そうは言いながらも、どんなに立派な計画が立てられ、どんなに多くの予算が割り当てられるかは、ひとえに人材の力にかかっています。
おりしも、静岡県において、伊豆の国市の「山反射炉」が、明治産業革命遺産の構成資産への登録がなされ、一気に観光客が増加したようですが、ノベル賞受賞とまではいかないにしても、地域を元気にしようとする気持ち、他にはないアイデアや企画を発想する力、そのアイディアを現実にする力、その力を実行力多様な人材が、この浜松市が、平成の産業革命の発祥地となり、新産業創出のメッカとなつて、世界各地から、数多くの方が訪れる都市になることを願っています。

2016 静岡県立浜松西高等学校同窓会 新春の集い
あの坂を登って
天空の学び舎から
未来へ、世界へ。
【羽ばたく】
日時:2016年1月2日(土) START 15:00
会場:グランドホテル浜松
◆日時:2016年1月2日(土) START 15:00 ◆会場:グランドホテル浜松
主催:浜松西高等学校同窓会
最新情報は同窓会ホームページでチェック!

メインテーマ 翔 『羽ばたく』 ~あの坂を登って...~

誰もが登った西山台のあの坂、90年の歴史を刻んだあの坂。あの坂から「浜松西高」が世界へと、そして未来へと羽ばたく!あの坂を登った同志との交流を通じて、今後の人生のさらなるステップとなることを願っています。

日時:平成28年1月2日(土) 15:00~
場所:グランドホテル浜松
会場費:8,000円(高48回卒以前) 5,000円(高49回卒以後)
主催:浜松西高等学校同窓会
運営:浜松西高第48回(平成8年)卒同窓会幹事会
お問合せ先:チケットに関する事 090-4384-8301(宮地)
記念誌広告協賛に関する事 090-3301-6898(河合)

平成二十七年度総会報告

6月13日(土)午後4時より、グランドホテル浜松孔雀の間にて、平成27年度同窓会総会が開催され、75名の会員の出席を得た。御室健一郎同窓会会長、木村功名誉会長の挨拶に続き、今年度の議事について協議が行われた。

◇議事

- (一)平成26年度事業報告
- (二)平成26年度決算報告、及び監査報告
- (三)「2015年新春の集い」事業報告、決算報告、及び同監査報告

◇役員改選

- (四)役員改選
- (五)平成27年度事業計画(案)
- (六)平成27年度予算(案)
- (七)「2016年新春の集い」事業計画

◇報告事項

- (一)本年度10月上旬に会員名簿の発行を予定
- (二)「2015年新春の集い」からの寄贈品により2階中央通



路へ「質問コーナー」を開設
(三)天野浩氏ノーベル賞受賞記念碑の製作について

◆役員交代

第四号議案にて、年度替わりに伴い、新春の集い幹事による副会長が高47回から高48回に交代することが発表され高48回岡本周二・西田容子の新役員2名が紹介された。



今年度の総会は天野氏一色といっても過言ではない。2015年新春の集いでは天野氏の参加もあり例年にならない盛況となった。代表幹事からはお礼の言葉が述べられた。
平成27年3月には同窓会主催、天野氏講師の講演会が「未来を築く皆さんへ」のテーマのもと行われた。在校生向けの講演で多くの生徒がこの出会いに感銘を受けたそうだ。
現在、後世にこの想いを繋げていくために記念碑の製作が進められている。来春2016年新春の集いでは天野氏の講演会も予定されている。テーマは「翔」(羽ばたく)。浜松西高の同窓生全員が世界へ未来へ羽ばたく原動力になる会にしたいと熱い想いを語り、協力を仰いだ。

同窓生の皆様に

この度、天野浩さんの偉業を後世に繋げるために学校内に記念碑を作ることになりました。つきましては一口3,000円(何口でも可能)を募り、同窓生の皆様の気持ちを結集したいと思います。11月末日までに右記の銀行振込をご利用ください。その折、「〇〇回×××」というように卒業回数と氏名を明記してください。天野さんご本人に協力者名簿をお渡します。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

同窓会執行部一同

静岡銀行 蛸塚支店
普通預金 No. 0579728

浜松信用金庫 東伊場支店
普通預金 No. 2078057

名義はいずれも
「静岡県立浜松西高等学校同窓会寄付金口
会長 御室健一郎」

同窓会 名簿発刊

浜松西高校同窓会名簿が平成27年10月頃発刊されます。5年に一度の発行で、恩師を含め、創立から現在までの同窓生約27,300名が収録されています。

名簿価格 4,000円(送料・税込み)

予約限定出版となりますので、
購入を希望される方はお早目にお申し込み下さい。

平成26年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 14,705,938円
 支出総額 7,229,114円
 差引残額 7,476,824円

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	7,802,148	7,802,148	0	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,600,000	0	高校67回卒業生240名
基金利子配分金	1,900	1,900	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	500,000	2,207,480	1,707,480	新春の集い剰余金
雑収入	20,000	54,410	34,410	預金利子、同窓会名簿代等
エアコン設備料使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より23年度から12年間回収
合計	12,964,048	14,705,938	1,741,890	

支出の部

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
1 事務費	700,000	503,983	196,017	
事務局費	400,000	409,483	△9,483	事務局職員給与、光熱費他
需用費	300,000	94,500	205,500	複写機リース料等
2 会議費	500,000	433,756	66,244	
総会費	300,000	255,668	44,332	総会会議費
役員会費	200,000	178,088	21,912	役員会会議費
3 事業費	4,100,000	3,377,833	722,167	
会報費	2,600,000	2,254,273	345,727	ホームページ運営費、会報印刷代、送料、会報編集委員会運営費等
助成費	1,500,000	1,123,560	376,440	慰霊祭、激励賞、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 予備費	7,664,048	2,913,542	4,750,506	
合計	12,964,048	7,229,114	5,734,934	天野浩氏ノーベル賞受賞関連

平成27年5月22日 静岡県立浜松西高等学校同窓会 会長 御室 健一郎
 以上のとおり報告します。 会計 鈴木 敏勝

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

平成27年5月22日 会計監査 前田 米蔵 ㊟ 会計監査 市川 静子 ㊟

平成27年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計予算書

収入総額 13,138,624円
 支出総額 13,138,624円
 差引残額 0円

収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
繰越金	7,476,824	7,802,148	△325,324	前年度繰越金
入会金	3,600,000	3,600,000	0	高校68回卒業生240名
基金利子配分金	1,800	1,900	△100	甲子園出場記念基金利子配分金
繰入金	1,000,000	500,000	500,000	新春の集い剰余金
雑収入	20,000	20,000	0	預金利子、同窓会名簿代等
エアコン設備料使用料	1,040,000	1,040,000	0	後援会より23年度から12年間回収
合計	13,138,624	12,964,048	174,576	

支出の部

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
1 事務費	700,000	700,000	0	
事務局費	400,000	400,000	0	事務局職員給与、事務所維持費等
需用費	300,000	300,000	0	複写機リース料等
2 会議費	500,000	500,000	0	
総会費	300,000	300,000	0	総会会議費
役員会費	200,000	200,000	0	役員会会議費
3 事業費	4,100,000	4,100,000	0	
会報費	2,600,000	2,600,000	0	会報印刷代、送料、会報編集委員会運営費・ホームページ運営費等
助成費	1,500,000	1,500,000	0	慰霊祭、激励賞、海外研修援助費、西山賞、講演会謝礼等
4 予備費	7,838,624	7,664,048	174,576	
合計	13,138,624	12,964,048	174,576	天野浩氏ノーベル賞受賞関連

※科目間の流用を認める

校長先生挨拶



校長 木村 功

同窓生の皆様には、日ごろより本校の教育活動に御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて昨年度、本校は創立90周年を迎えました。そしてその節目の年に、生徒たちは掛け替えのない、貴重な出会いを経験しました。「人間はたった一人では生きていけない。社会の中で生きていくしかない。自分が働くことによって、どこかの誰かを喜ばせることができる。それが、自分が社会の中で存在する意味でもある。」という池上彰先生からの示唆、また、「早いうちから自分の夢を決められれば幸せだが、じっくり自分のやりたいことを考えてから決めると大丈夫。これしかない」と決めつけず、自分が学んでいることがいつかは人や社会の役に立つという強い気持ちで、視野を広げて様々な勉強に取り組み。「という天野浩先輩からの励まし

の言葉から、何かに気付き、こころ奮い立つ経験をした生徒も多かったはず。お二人の言葉のどちらにも「じっくり学べ。いろいろ幅広く学べ。必要なのは教養。」というメッセージが込められているように感じられます。

「教養」と言えば、実は3月初旬、週刊エコノミストで「名門高校の校風と人脈」の連載を手掛けるジャーナリストの猪熊建夫さんの取材訪問がありました。本県では本校が三校目とのこと。本校を取り上げる理由を率直に伺ったところ「きっかけはそう(天野浩氏)だが、本当の関心は、輩出された人物の実績や知名度ではなく、その人を育てた学校の土壌の厚さ、育む教養の豊かさにある。」との返答に、ちよつとした驚きと嬉しさを覚えました。

先日、前年度の新春の集いの幹事の皆様方から、生徒たちに素敵な贈り物を頂きました。廊下の隅に設けた学習質問コーナー。真新しいホワイトボード、長机そして丸椅子。照明は勿論LED、天野先輩の色紙を添えて、教養の基礎を培う新しい学びのスペースがまた一つ増え、大変感謝しております。

同窓生の皆様には、本校の伝統を継承し、また自ら新しい歴史を拓かんとして頑張る後輩たちに今後も一層の御支援・御声援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年 新春の集い盛大に開催

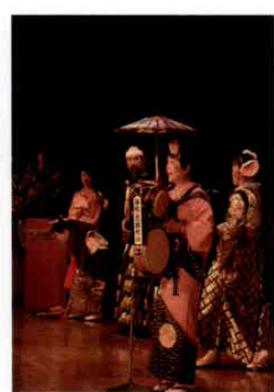
代表幹事 村松貴通(高47回)

平成27年1月2日、グラランドホテル浜松にて毎年恒例の「新春の集い」を盛大に開催できました。このことを心より御礼申し上げます。

西高創立90周年、そして、天野浩先輩が静岡県内ではじめてノーベル賞を受賞された記念すべき年に、新春の集い幹事を担当させていただき、私達高47回卒一同、感謝の気持ちで一杯です。

今回のテーマ「繋がる」は、キーワード「3本の矢」です。1本目：諸先輩方と「繋がる」。地元浜松はもとより、日本全国及び様々な業界・分野で活躍する諸先輩方と繋がることにより、学生時代では学ぶことができない知恵や知識の習得、西高卒業生としての誇りを学ぶ。特に今回は、ノーベル物理学賞受賞者の天野浩先輩もご参加いただけました。

天野先輩の素晴らしい功績は、我々幹事学年はもちろん、全ての西高関係者にやる気を与え、かつ自負の精神と大きな責任感を喚起するものです。2本目：後輩、西中高の現役学生と「繋がる」。次代を担う若者と繋がることにより、新しい見



識と発想力を吸収し自身の活力となる。西高が中高一貫校移行後、昨年は中等部一期生が社会に巣立つ年でしたので、今回から中等部生も初めてご参加いただけました。3本目：同級生と「繋がる」。卒業してから各々の進路を歩みそれぞれの立場や環境において頑張る同級生と繋がることにより、西高時代には最高の仲間がいたことを再認識する。そうした1本、2本、3本が重なり合うことにより、「繋がり」がより強く、西高・西中の存在感、社会的貢献度がより一層高まることを期待しています。

今回の新春の集いは、1000名を超える大変たくさんの方々にご参加いただき誠にありがとうございます。天野先輩によるノーベル賞受賞講演も同日催しましたが、母校愛に溢れる大変貴重なお話で、参加者の皆様も大満足の様子でした。会場では、大人気の「家康くんLED

ライト付き液晶クリナー」を販売させていただき、売上金の一部を天野先輩へ今後の研究費支援として進呈いたしました。本年の「新春の集い」には、還暦を迎えられた高25回卒の先輩の皆様には、100名を超える多くのご参加、記念誌のご協力を賜り心より御礼申し上げます。また、記念誌の発行及び新春の集いの開催にあたり、広告協賛やチケットの購入におきましても、多くの同窓生の皆様、企業の皆様のご理解とご尽力を賜るとともに、温かい励ましのお言葉をいただき心より御礼申し上げます。

2016年の「新春の集い」は、高48回同窓生が幹事となりますので、よろしくお願い申し上げます。最後に、浜松西高等学校の同窓会、同窓生の皆様の益々のご多幸とご発展を祈願して代表幹事の言葉とさせていただきます。



2015年 新春の集い 決算書 (単位:円)

科目	金額	摘要
収入の部		
広告売上	9,499,000	広告 453件
チケット売上	9,012,000	チケット枚数 1,185枚
記念品売上	0	実施せず
雑収入	100,000	恩師等よりご祝儀(10名)
預金利息	739	預金利息
合計	18,611,739	

(単位:円)

科目	金額	摘要
支出の部		
会場費	9,290,002	グランドホテル会場費等
景品費	360,162	当日抽選会の景品
印刷費	2,822,538	記念誌、チケット等
通信費	459,630	携帯電話、葉書等
会議費	1,399,660	幹事会、部会経費等
事務費	5,683	文具等
交際費	476,900	西高フォーラム、総会参加等
渉外費	1,483,736	クライアントとの打合わせ等
雑費	6,588	振込手数料等
その他	99,360	学校への寄贈品
本会計繰入	2,207,480	
合計	18,611,739	

以上の通り、ご報告申し上げます。

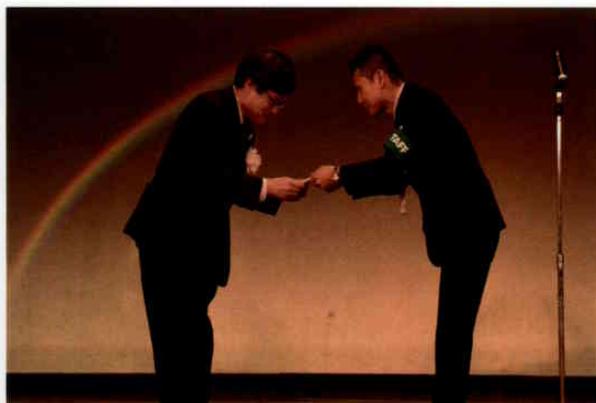
静岡県立浜松西高等学校

第47回卒 2015年新春の集い幹事会

代表幹事 村松 貴通
会計 島 章悟

上記の通り、正確に処理され適正と認めます。

平成27年3月17日 会計監査 前田 米蔵 ㊟
会計監査 市川 静子 ㊟



第十一同窓会講演会

「未来を築く皆さんへ」

天野 浩 高31回

平成27年3月16日、西高体育館に於いてノーベル物理学賞受賞記念講演が行われました。3月1日に卒業式を終えた卒業生もピカピカのスーツを身に付けて参加。会場は満員で熱気に満ちていました。

まず、同窓会薩川副会長より「天野先生、本日はありがとうございます。どうか、生徒の皆さんに希望と勇気を与える講演をお願いします。私は、天野君の同級生です。ノーベル賞受賞の後、名古屋に出向いて講演依頼をし、即OK貰いました。皆さんには学歴だけでは駄目。実績を積むこと、失敗を成功の糧として努力し続けることが大切だということに身に染みて心に留めてほしい。物づくりの町を卒業したという誇りを持って社会で活躍してほしい。また、1月2日に毎年行われている大同窓会のほうにも足を運んでほしいと思います。」との挨拶がありました。

講演に先立ち、生徒が作った天野氏紹介映像が流されました。以下、講演内容です。

いのですが、ノーベル賞を受賞したらどんなことが起きるかお話ししたいと思います。この体育館懐かしいですね。バスケットをやったことを思い出します。

私は祖母によく育てられました。その祖母は、父が下校時グラマンに追いかけられて機銃掃射を受け、弁当箱にそれが当たって助かったというとき、「大事な弁当箱を壊して！」と怒った人です。父はよく酔うとこの話をしました。

私は小さい頃体が弱くて病気がちで、広沢小学校の高等学校ではソフトボールをやりました。が、スポーツは才能がないと思いい、諦めました。蛭塚中学校では受験勉強にのめり込めず過ごしましたが、転機は西高に入學して数学の伊藤保先生に出会ったことで訪れました。先生は非常に論理的に話をしてくださり、論理的に考えれば全てが解けると言われ、面白いと思えました。

また、当時の曾根雄一校長先生が、朝礼のときに「憂きこと限りある身の力試さん―熊沢蕃山」と言われた言葉は、高校時代勉強に息詰まったときの糧となりました。

次の転機は名古屋大学電機工学科のとき。「工学部」の「工」の字の意味は人と人とを結ぶこと。人の役に立つのが勉強なんだ」と聞いて視野が広がり、勉強する意味がようやく分かった気がしました。

なぜ青色LEDを研究テーマにしたかというと、ビル・ゲイツとポール・アレンが、マイクロソフトを創業し、ステイブ・ジョブズがアップルを創業して、コンピュータ時代が到来しました。しかし、1970年代のブラウン管は大き過ぎて電力がかかりすぎる。青色LEDがあれば小さいディスプレイができる。何とかしよう!と思っただけです。

初めはディスプレイに使うしか考えていなかったのですが、黄色蛍光体をつけると青色LEDは白色になります。それで、世界の子供たちへの簡易照明の提供ができることになりました。モンゴルでは80%が遊牧生活をしていて、LEDのお陰で子供たち勉強ができるようになりましたと言われたときは嬉しかったです。

受賞を知ったのは7月8日フランクフルトの空港でメールを開いて知りました。それから200件もの取材を受け、200件もの講演依頼を受け、生活がガラリと変化しました。授賞式は一週間行事詰め。ノーベル受賞博物館では、ゆかりのものを寄贈し、昼にはスウェーデン国王も出席するパーティーに参加し、ノーベルコンサートではソプラノ独唱を聴きました。そうそう、次に受賞する人、英語は勉強しておいてください。現地の高校で英語で授業もします。

貸し切り列車で移動をしてリハーサルをしたときにはとても

緊張しました。王立アカデミー主催の晩さん会では、シルヴィア王妃とヴィクトリア王妃の隣に座わり、教育問題について話しました。国王、王妃、王女それぞれ大変気さくで、かつ勉強家。スウェーデンの状況をよく知っておられました。全てをこなすには体力も必要だとわかりました。



これで皆さん、受賞の準備ができますね。皆さんのこれからのご活躍を楽しみにしております。ご静聴ありがとうございました。

講演終了後は質問タイムが設けられ、たくさんの方の挙手がありました。LEDの基盤はサファイアとありますが、宝石のサファイアですか？コストはかかりますか？

が、純度の高いものを使い透明の板状にします。板一枚千円くらいです。夢は早く決まればよいものですか？自分はまだです。

早くから決まれば幸せだと思えますが、じっくり自分の頭で考えることはしたほうがよいです。時が経つにつれて世の中のことが見えたり自分のことがわかることがあります。決めつけられないで視野を広げながら過ごすとよいと思います。

〇多くの実験をしたと聞きましたが新しいアイデアはどうやって作り出しますか？

いろいろな人の意見、装置を見せてもらったり、本を読んでヒントはないか探したり、参考になるものはないかとずっと考えているとそのうち湧いてきます。

講演終了後に感想を伺うと、「鋭い質問に冷や汗が出ましたが、たくさん質問してくれて楽しかったです。ストリートにどんな質問できる雰囲気か素晴らしいですね。皆さん、元氣そうで笑顔がたくさん見れて嬉しかったです。」と。

また、これからの夢として、(LEDを地球規模で考えて利用していきたい。まずはエネルギー問題の解決。次にLEDを当てることで消毒効果が得られることから環境と健康や食料へ)と、天野氏の目は次の目標へと向かっていました。「勉強は人のためにするものだ」―心に刻みたいものです。

OB・OG会活動紹介 浜西陸上部OB会

浜西陸上部OB会は平成2年の総会で正式に発足した。OB会の目的は、在校生陸上競技部を積極的に援助することと併せて会員の親睦に努めることと定められている。その目的に沿って発足以来25年間地道な活動を続けている。

OB会の初代会長は、鈴木啓之(高3回)、二代目石川準司(高16回)、三代目外波山雅章(高19回)と続き、私は四代目の会長をおおせつかった。陸上部は、西高開校以来の伝統ある部活で、石川準司のようにオリンピックに出場した先輩もいれば、インターハイで優勝した先輩後輩もたくさんいて、静岡県といわず全国でも強豪校として知られた存在である。陸上部初代監督は伊藤久雄先生で、伊藤先生は一昨年米寿のお祝いをOB会でさせていたのだが、現在もお元気でOB会の象徴的存在である。二代目は石川準司先生、三代目は津田隼彦先生、四代目は山下昌彦先生と続き、現在は筒井計臣先生が五代目として現役生の指導にあたっている。本年もインターハイ県予選が終わったところであるが筒井先生の熱心な指導で多くの選手が東海大会への出場の特権を取得したようだ。歴代監督は四代目の山下先生を除き、いずれも浜西陸上部OBの生え抜きの先生達である。



OB会の主な活動としては年一回総会と懇親会を開き、会員の親睦をはかっている。現在のOB会員は総数が700名を超えて大所帯となっているのは長い歴史と伝統のたまものといえる。ただ、総会、懇親会の出席者が毎年30名から40名程度で、さらにより多くの会員に出席していただけるよう工夫していきたいと思っている。

会の運営は会員からの年会費でまかなっているが、毎年100名以上の会員から会費を納めていただき感謝している。現役陸上部員への応援としては、全国大会出場選手への支援はもとより、中1から高3までの全員にOB会のネーム入りオリジナルスポーツタオルを送っている。一部の強い選手だけでなく、全部員を激励したいという趣旨から始めたことである。スポーツタオルを全部員に送って7年になるが、中1から高3まで6年間頑張った部員は6本のスポーツタオルが揃っているはずである。ただ嬉しい悲鳴であるが、現役陸上部員が中1から高3まで合わせると100名以上になり、タオル代捻出も少し大変ではある。このように、OB会及び現役陸上部員も大勢になり嬉しい限りであるが、OB会の事務を担当する事務局が優秀でないと運営が成り立たないところ、現在は鈴木公(高35回卒)が事務を迅速正確に処理してくれて大いに助かっている。今後は会員の皆様の協力を得て歴史と伝統のある浜西陸上部OB会をさらに発展させるよう努力する所存である。

りであるが、OB会の事務を担当する事務局が優秀でないと運営が成り立たないところ、現在は鈴木公(高35回卒)が事務を迅速正確に処理してくれて大いに助かっている。今後は会員の皆様の協力を得て歴史と伝統のある浜西陸上部OB会をさらに発展させるよう努力する所存である。

対浜松北高

OB定期戦

サッカー 第39回定期戦結果

毎年8月の第一日曜日に浜松西高校と浜松北高校の定期戦が行われていきます。現役サッカー部員とOBの方々が集い、サッカーの試合を通じて交流を深めています。現役選手は各種大会で競い合うことに加え、両校の伝統を感じる場として、OBの方々は、旧友との再会を懐かしみつつ勝負する楽しさを味わう良い機会となっています。

第39回定期戦は、浜松西高校が幹事当番となり、遠州灘海浜公園球技場で行われました。現役部員・父母会・若手OBから60代・70代のOBの方々までたくさんの御参加と御協力で定期戦が開催できましたこと感謝を申し上げます。

当日は、天気にも恵まれ、どの年代におきましても熱戦が繰り広げられました。特に、いくつになっても、サッカーを愛

し、真剣なプレーをされているOBの方々の姿は、現役選手にとっても多くのことを学べるよい機会となりました。

このような素晴らしい伝統が今後も引き継がれ、定期戦が末永く開催されることを期待するとともに、浜松西高校と浜松北高校の両校が益々発展していくことを願います。

OB戦60歳以上	浜西0-3 浜北
現役C戦(中等部)	浜西0-1 浜北
OB戦40歳以上	浜西0-2 浜北
現役B戦	浜西0-2 浜北
OB最強戦	浜西3-1 浜北
現役A戦	浜西1-2 浜北
一勝五敗0分	

サッカー部は来年、創立70周年を迎えます。記念イベントを平成28年8月6日(土)19:00に記念パーティー(クラウンパレス)7日(日)北高との定期戦を開催します。乞うご期待ください。

大隅 康人(高40回)

野球

ここ数年は雨で実現しなかった恒例の浜松北との定期戦が、4月29日(水)に快晴の浜松球場で開催されました。4回までは40歳以上が、5回以降は39歳以下の若手選手同士が戦うルール。笑い絶えない珍プレーの連続でした。ライナーを「ぼろっと」落とし、エラーを装った?あたかも狙ったかのようなダブルプレー、フライの目測を誤り転倒しながらも捕球する好プレーなど、まだまだ動けるぞ



と時折見せるOBのハッスルプレーが球場を沸かせました。若手選手が指導を受けた清水淳次前監督も参加されました。師弟の懐かしい会話も弾み、ベッチは終始和やかな空気に包まれました。結局、浜松西が8対6で浜松北を下し、戦績を19勝13敗3分としました。

現役選手は日々練習に励んでおり、自己の限界に挑戦し、「文武両道」を追求する姿勢には敬意を表します。

就任2年目の佐藤光監督には日頃から熱いご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

「野球は番狂わせが多いスポーツ」と、佐藤監督の仰せ通り、シード校を決める春季大会は強豪校が相次いで敗退しました。夏季大会では選手たちの勇姿を見られた方も多いのではないでしようか。ご声援、ありがとうございます。

死力を尽くして闘う浜西球児の活躍を、OB会は期待しています。球場に響き渡る浜西の校歌を何度も聞かせて欲しい。

頑張れ浜西! 目指せ甲子園!

藤崎 巧二(高38回)

叙勲の人

平成26年度秋の叙勲

- 瑞宝双光章 勝間 元伺(高14回)
- 瑞宝双光章 滝浪喜十男(高14回)
- 瑞宝単光章 古橋 豊(高19回)

平成27年春の叙勲

- 瑞宝双光章 山内 明(中21回)
- 瑞宝双光章 中村 伸夫(高13回)

瑞宝双光章

勝間 元伺 (高14回)



平成26年度秋の叙勲で瑞宝双光章を受章することとなり、皇居において天皇陛下に拝謁させていただき誠に恐れ多く有難く思っております。

西高校では3年間柔道部に所属して練習に励み、昭和37年3月に現在日本武道館が建っている警視庁警察学校へ入校しました。

警察学校卒業後は荻窪警察署、第四機動隊、大森警察署で勤務し、東京で9年間を過ぎた後静岡警察に特別採用させて頂きました。

第四機動隊在任中は三派全学連の活動が華やかな時代で警備活動も連日の様に続き、投石による生傷が絶える事がありませんでした。

静岡警察では機動隊に配属され、成田闘争警備の為に千葉警察へ応援派遣されました。

この警備の際に、近くで警備活動に当たっていた神奈川県警の部隊がデモ隊に襲われ3名の警察官が殺害される事件が起こりました。

その後は伊東署、天竜署を廻り細江署から交通警察の道を歩むこととなり、浜松東署、本部交通指導課、榛原署へと赴任しました。榛原署においては200台に及ぶ車両による暴走族の集団暴走を検挙する事となりました。

その後は天竜署において交通課長として勤め、浜松東署において地域警察官として勤めた後41年間の警察官生活に終止符を打ちました。

ナイフで刺されて怪我をする等生命がけの危険な事も多くありました。公僕として生きてこられたことは自分自身の誇りでもあり、多くの周囲の方々に助けられたと心から感謝したいと思っております。

又この様な拙い文を読んで頂くことを心苦しくありがたく思っております。

母校西高そして皆様の増々のご発展を心からお祈り致します。

瑞宝双光章

滝浪喜十男 (高14回)



このたび叙勲をいただき、本心に身に余る光栄と感じています。これは警察に勤務し、無事に42年間警察官としての生活を終えることができたからだと思います。在職中ご指導くださった諸先輩方、同僚はもちろん、私を支えてくださった皆様から感謝しております。

私は浜松西高を卒業と同時に静岡警察学校に入りました。仕事の内容は主に防犯警察でした。この業務は皆さんが安心して生活できるように犯罪を未然に防ぐものです。この後、警察署や県警本部に異動をし、様々な業務に携わってまいりました。

特に思い出に残っている出来事は、警察本部少年課勤務時代の各警察署への事件処理応援です。事件は、東京方面から伊豆下田方面まで数百台のバイクが暴走行為を繰り返す、最後に下田の白浜、石廊崎で地元の暴走族グループと乱闘を起こすというものでした。当時は警察本部に現在のような暴走族事案の担当課はなかったため、本部の防犯部、交通部、刑事部からなる

捜査員でチームを組んで対処してまいりました。私はチームのキャップに指名され、伊豆の下田、伊東、沼津の各警察の道場に捜査員30名と共に寝泊りをしました。捜査は2ヶ月に及ぶものでしたが、全貌解明の上、検挙することができました。

こうして今、自分の警察官生活振り返ってみると、家族には本当に苦労をかけたものと思います。中でも私に代わって常に家庭を守ってくれた妻には心から感謝しております。昨年の皇居での拝謁には妻とともに出席されたことを非常に嬉しく思います。

これまでの日々を誇りに感じながら、今後も健康に留意し、安心・安全な地域社会のために尽力していきたいと思っております。

瑞宝単光章

古橋 豊 (高19回)



娘からの重い贈り物！

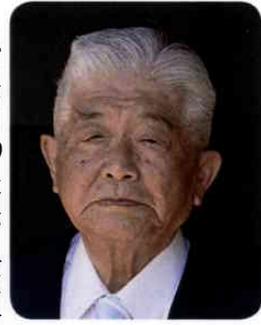
昭和42年に西山台を飛び立ち約50年の歳月が経とうとしています。この度は秋の叙勲で私ごときに瑞宝単光章と言う勲章を授与して頂き感謝する次第で

す。私が受章に至った背景は就職したヤマハでFRP(ガラス繊維強化プラスチック)成形の仕事に従事し、その関係で静岡県職業能力開発協会から技能検定委員を委嘱され30年近く務めて来た事によります。朗報を聞き付けて西高の同窓生からお祝いのお言葉や宴を設けて頂き感謝しています。しかし絶対に得られぬ物を得た反面、絶対に失ってはならぬ物を昨年は失いました。

それは西高の49回の同窓生になります。次女の万里が享年35歳で鬼籍に入りました。一昨年2月に多発性筋炎そして3月に乳がんの診断が下り現在5歳の男の子、3歳の女の子を抱え明るく難病と闘ってきたのですが昨年8月18日に帰らぬ人となりました。秋の叙勲の内示を頂いた時、娘に伝えました。「お父さんが頑張ったんじゃないや無くお母さんの頑張ったと言う事を忘れない事、周囲の人達に我儘を許して貰った事に感謝する事！」と手厳しくやられました。娘の葬儀の際には西高の同窓生もお別れに来てくれて悔しさと感謝の気持ちで一杯でした。婿と孫はその日から拙宅に同居して生活しています。婿は会社に行くので専ら私は有爺！です。人生あいうえお(愛と運と縁と)恩)を忘れずにATM(明るく！楽しく！前向きに！)で生きて行くこうと思っております。天野先生のノーベル賞受賞の年に叙勲の栄誉に浴した事も感謝感激です。更なる西高の発展をお祈りします。

瑞宝双光章

山内 明 (中21回)



私は昭和19年夏、兵庫県より転入学した。在校生は1、2年のみ。閑散とした学内だった。上級生は学徒動員で働いていた。暮には大きな地震もあり不安な毎日だった。20年には学徒動員で鈴木織機(現スズキ)で空襲におびえながらの作業の日々。そして終戦。復学後も2年くらいしか勉強できていないので青春時代の楽しみも無く浜二中での思い出は極めて薄い。昭和23年春、21回生で卒業。浜工専で機械工学を3年学び旧国鉄に就職。昭和26年から私の鉄道人生が始まった。初めは蒸気機関車の運転から始まり、次に西山台の二中から見下ろしていた工機部へ移り機関車検修に従事し東海道新幹線電車検修の設備計画、設計施工を担当。昭和43年春、国鉄本社へ転勤し続いて現さいたま市の大宮工場で鉄道工場の動力近代化、機械化、公害対策に努めた。又、東北、上越新幹線が大宮工場の中央部を高架で縦断することになり当時30000人の職員の日常作業を継続しながら支障工事も施行という難工事であった。

次いで仙台へ転勤し新幹線の仙台駅と車両検修の仙台工場の企画、設備新設で4年間単身赴任で働いた。再度大宮工場へ戻り、無事に新幹線のテープカットを皆で祝ったのであった。国鉄が民営化になる春に国鉄退職しJR東海の会社で東京地区の機器設備の保全担当、協力会社の育成と保全体制の確立に力を注ぎ平成十年春に退職した。軍人だった父からの教えは、「誰からも信頼される人になれ。」であった。戦後の就職難の時代に入った鉄道人生は派手な目立つものではなく縁の下での力持の連続であったが上司、同僚、部下との信頼の上の50年であった。今回はからずも春の叙勲の榮譽に浴し参内し陛下のお言葉を賜りました。鉄道もスピード化の時代、九州から北海道まで新幹線はつながりつつあり中央リニアの着工も近い。何よりも安全第一で益々の発展を願っている。母校の後輩たちが平和な環境で思う存分有意義な学生生活を過してもらいたいと心から祈っている。

瑞宝双光章

中村 伸夫 (高13回)



このたびの春の叙勲の内示を

受けた時、あまりに突然なことで大変びっくりし戸惑ってしまいました。そして、教育功勞に値する仕事をしてきたのだらうかと、自らを振り返らざるを得ませんでした。私は西高在学中、器楽部で活動したこと、音楽の教師になりたいと思ひ静岡大学へ進学しました。その後、大変お世話になった3人の先生との出会いが、私を音楽教師として育てていただくことになりました。個人的にピアノの指導を受けた故中島静先生、教育実習でお世話になった渡瀬祥光先生、そして合奏の指導法を教えていただいた故森口喜雄先生は、私の音楽教師としての「芯」を作ってくれた方だと思っています。大学でのオーケストラ活動がきっかけで、子供たちに「音楽を楽しむ心」を育てたいという思いを持つようになり、勤務した各小中学校での指導や浜松市教委の依頼で長年携わった児童会館音楽隊での指導は、その思いを実現するための活動が中心になりました。学校を離れて西部教育事務所に勤務した時には、同じ職場に勤める先輩の藤森徹さん(高7回)をはじめ西高同窓の方々から多面にわたるご示唆をいただき、のちに三ヶ日青年の家所長や校長として職に就いた時の大きな支えになりました。出会った先輩方や同僚の支えがあって、今回の受章となったと思います。ご指導いただいた多くの方々へ感謝するとともに、教職の道を歩んできて、本当によかったと思っっているとこ

活躍する同窓生



古橋 拓哉 (高48回)

浜松にUターン開業をしてから4年が経とうとしています。最近では地域に根ざすことができつつあるようで、それなりに忙しく、おむつをしている赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで幅広い世代にわたって診療させてもらっている今日この頃です。大学進学当初から腕のいい歯医者になって浜松に帰りたいと漠然と思っていたところ、大学5年生の病院実習で父よりも若い患者さんの入れ歯を作ったことが卒業後の進路を決めるきっかけとなったように思います。その患者さんは僕にこう言いました。「上手に年越しそばが食べられる入れ歯が欲しいんだ」と、11月下旬になってからのこととスケジュール的にはかなり厳しいものではありましたが指導医の協力もあり、何とか年末に義歯を装着することができま

した。正月休み明けに患者さんから「ありがとう、娘の前で恥をかかなくてすんだよ」と言われた時は大変うれしかったことを覚えています。この経験が僕の医療人としてのベースとなったように思います。大学卒業後は、困っている患者さんの力になれるのは入れ歯が上手な歯医者だと思ひ、義歯や噛み合わせを専門とする医局に大学院生として入局し研究に診療に、まさに寝食を忘れる生活を強要されるハードな4年間を送りました。その後、勤務医を経て当院を開院するのですが、当地と離れたところで生活していたこともあってか、自分が西高OBであることを意識する機会はあまりありませんでした。浜松市内にフル歯科医院を開業後は様々な出会いの中で同窓の先輩達に助けられながら、この4年間を過ごしてきたように思います。開業準備中にお世話になったのは、当院を設計してもらった設計士さんでした。自分とは入れ歯の先輩でしたので面識など当然なかったのですが西高の先輩と言うだけで、何となく頼もしく思えたことを覚えています。その先輩からは当院のロゴやホームページを製作してくれ

たデザインナーの先輩を紹介してもらいました。こちらの先輩は野球部OBで、僕も体育を教えるもらった野球部監督の先生の話で盛り上がりたり？妙な親近感がわきました。また、歯科医師会にも数多くの西高OBが在籍しておられ会議で隣席する先輩がベストセラー作家であったり、西高OBが各方面で活躍されていることを実感しています。今後は僕も同窓の皆さんに負けぬように精進を続けていかねばと思う今日この頃です。

お母さんは 白バイ隊員



己ノ瀬郷子 (高48回)
「お母さんは白バイ隊員だったんだよ」

19年前に西山台の瓦葺の校舎から巣立った時には、自分の息子たちにこんな話をするとは夢にも思いませんでした。
早いもので私が静岡県警察官を拝命してから15年、そして2人の息子たちは6歳と2歳になりました。

大きな声では言えませんが、私が警察官になったのには大きな志があった訳ではありませぬ。

大学4年生の時に就職活動も一段落したところで警察官の採用試験があり、「普通のOLになるより面白いかも」という軽い気持ちで採用試験を受け、合格して警察官になりました。

しかし、6カ月間の警察学校での初任研修で意識が大きく変わり、「自分が生まれ育った静岡県のために、私が出る限りのことをしよう」と強く思うようになりました。

警察学校を卒業後富士警察署に配属され、そこで学生時代に趣味でオートバイに乗っていたことから当時の上司に声を掛けていただいて、白バイ乗務員養成訓練を受けることになりました。

白バイ乗務員養成訓練は、テレビ番組の警察密着番組などで紹介されるように、とても厳しいものでした。

排気量750cc (現在は1000cc超の白バイが主流ですが)総重量260kgの白バイを手足のように操れるようになるまで転んでは起こしの繰り返しで、全身あざだらけになるまで走りました。

それから交通機動隊と警察署の交通課で通算5年間白バイに乗り、悲惨な交通事故を1件でも減らすべく交通違反の取締ま

りやイベントでの交通安全啓発に努めました。

その後長男を出産して2年間の育児休暇を取り、一旦仕事に復帰した後に次男を出産し、再度2年間の育児休業をいただいた後に、今年5月に仕事復帰をしました。

このように、妊娠出産を経て再度仕事に復帰できたのも、仕事と子育ての両立を後押ししてくれる制度と家族の協力があったこそだと感謝しています。

2人の子どもに恵まれた今、県民の安心安全を守るため、また家族の笑顔を守るために、これからも日々職務と家事育児にまい進したいと思っています。そして、またいつの日か子ども達に「お母さんは白バイに乗ってるんだよ」と話せるようになればいいな、と思います。

第14回 西高同窓フォーラム

第14回西高同窓フォーラムは、平成27年2月21日(土)ホテルコンコルド浜松にて100名余りの出席者のもと開かれました。

第一部は「銀木の間」にて竹内県議会議員の講演が行われました。「浜松の将来と静岡県の未来」



と題し、静岡県の人口削減について、西高卒業生が地元浜松市や静岡県に戻る率が低いことも踏まえ、たくさんの資料の中、具体的な数字を出していただきながら、今後どうしていくのがよいかをお話いただきました。

第二部は「雲の間」に会場を移動しての懇親会。恒例の高14回大塚哲雄氏、高17回飯尾強氏による司会にて進められました。ご挨拶、花の舞での乾杯の後、歓談の時間となり、世代を超えての交流が図られました。高36回高田光三氏からゴルフコンペ幹事挨拶、高47回村松貴通氏から新春の集い幹事挨拶、高48回岡本周二氏から来年1月の新春の集い幹事挨拶の後、恒例の応援歌により閉会となりました。

◇臨時特別西高同窓フォーラム
平成27年6月7日(日)ホテルコンコルド浜松にて「臨時特



別西高フォーラム」が開催されました。
これは、先の統一総選挙で当選された方の祝福、市議会議員を28年間務められた高6回酒井基寿氏のご退任等もあり、特別に今回開かれたものです。
第一部では、酒井基寿氏の基調講演「28年を振り返る」と題し、これまで市政に熱意をもつて取り組まれたことをお話ししていただきました。
また、城内実外務副大臣もお招きし、ご挨拶をいただきました。
第二部では、高42回溝口紀子氏の静岡県教育委員会委員長退任に際しご挨拶をいただき、2月開催のフォーラム開催時と同様、あちこちで和やかに歓談の様子が見られました。

第39回浜松西高同窓ゴルフ大会結果報告書

恒例の浜松西高同窓ゴルフ大会が、平成27年5月13日(水)に浜名湖カントリークラブで開催されました。伝統あるこの大会も本年度で39回を数えることとなりました。

前日の台風6号の影響が心配されましたが、素晴らしいゴルフ日和となり、新緑の中、中16回・高2回〜高48回までの総勢202名が腕を競い合いました。



シニアの部優勝

た。熱い勝負の中にも和気藹藹と同窓生同士の親睦を深めることができ、大変有意義な一日となりました。競技の結果は下記の通りです。

◆シニアの部

- (高15回以上…67名参加)
- 優勝 高橋 誠(高4回)
- グロス 87 ネット 72・6
- 2位 高部 勝(高9回)
- グロス 85 ネット 73・0
- 3位 松山 亘男(高11回)
- グロス 83 ネット 73・4

◆一般の部

- (高15回以下…133名参加)
- 優勝 小楠 順久(高18回)



一般の部優勝

◆女性の部(2名参加)

- 優勝 石川 江利(高32回)
- グロス 102 ネット 80・4
- 以上

多大なるご協賛を賜りました皆様、ご参加いただきました同窓生の皆様に、御礼ならびに感謝をいたしますとともに、この大会の更なる発展と今後も未来永劫引き継がれることを祈念いたします。

幹事 高36回一同

還暦に寄せて



大塚 功(高26回)

45年前に西山台の東坂を登った記憶は次第に薄れつつあるが、なぜか同窓会館の場所に

あった記念館の記憶だけは鮮明だ。然も、その中で体育の授業があり倒立の試験があったことを覚えている。還暦を迎え母校を思い出せば、学舎は今、その殆どが建て替えられた。東坂の北側に木造の武道館が有り、プールも柔剣道場も宿泊棟もなかった。50mプールの完成披露式典には、母校の誇りで有り日本水泳界の伝説となっている古橋廣之進先輩が来校されて見事な泳ぎを披露された。その様子も私にとって忘れられない光景である。同窓会の会合の折に、母校を訪れたとき、私が高校時代に校舎の屋上から見た遠州灘のキラキラと光る水面が今の後輩たちにどのように見えているのかと思うことがある。この気持ち卒業後40年を過ぎた感傷というのだろう。

さて、22年前に新春の集いの幹事を任された時には60歳は遠い存在であった。先輩の方々のアドバイスを受けながら約2年間、月1回の集まりから少しずつ準備していった過程は新鮮なものであった。当番幹事になり高校時代には接点がなかった同窓生とも交流がすることができ、その後は生活範囲が大きく広がったように感じている。昨年夏に開いた高26回の学年同窓会でも、遠方から本当に久しぶりに駆けつけてくれた同級生とも懐かしい会話が弾み心地よい一時を過ごすことができた。しかし、50代の後半ということから健康や病気の話、可愛い孫の自慢話や子どもの結婚の話が思いつくよりも多くなったことが40年の月日を感じさせた。

毎年、送られてくる同窓会報で西高生や同窓生の活躍を知り大きな刺激を受けている。平均寿命から考えれば残り20年余りの人生、少しでも社会に恩返しができることがあればと考えられる。論語に「六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従って矩を踰えず。」とある。私も孔子のように60歳を過ぎれば自分の心の中に次に進むべき道が開けてくることを願っているが、未熟者には到底孔子のように道が開けてこないものであるように感じる。

アメリカの詩人、サミエル・ウルマンは「青春」の中で、「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春と言うのだ。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失うときに初めて老いが来る。」(以下略)

還暦を迎えたが、これからも日々の生活の中で「青春」を感じ取りたいと願っている。

高5回
〈傘寿の会〉同窓会

9年前に高5回生全体の会合は最後にするという事にしていましたが、前後の回がまだ元気に会合を持っていることも踏まえ、前年12月のミニ同窓会の際には、出席の皆さんが異口同音に80歳の節目には是非同期全体の顔合わせをしようとの強い要望の声を挙げられましたので、「傘寿の会」を開催することにしました。当初は一泊二日の声もありましたが、最終的に26年10月5日夕刻に実施になりました。

同期卒業生は307名でしたが、同窓生名簿により約200名の同期生に、少し前のニュースで、日本男性の平均寿命が80歳を超えたことが報じられました。我々5回生は正にその年齢ですが、これからの余命、お互いにより健康に、それぞれの場ですっきり存在感を持って生活しなければと思いませんか。頑張りましょう!! の呼びかけで「傘寿の会」への出席連絡しました。

体調不良による欠席は当然多数でしたが、返信での訃報連絡

も10数名、流石に年齢を感じさせる数字でした。出席の返信は当初53名でしたが、当日は遠くはマレーシア在住でこの会のために帰国した者や北海道・仙台などから51名の同期生が参集し、旧交を温めることが出来ました。会の始めに約3分の1に当たる96名の物故者に対する黙祷をするとともに、出席できた幸せとお互いの健康と今後の健勝を誓って懇親会を進めました。遠方出席者を主に近況報告などを行いながら、各テーブルごとそれぞれに話を盛り上げ



ていきましたが、台風接近による交通不順を考慮してやや早めの解散になったのは折角の同窓会だっただけに残念でした。それでも最後の校歌斉唱は高校時代を思い出すとともに応援歌まで声高らかに歌い継ぐ元気をみせていました。

なお20数年前から偶数月5日に有志交流会を実施して行っています。当初はバーデンバーデンで行っていましたが、現在はハーランド(静銀浜松支店北)で午後6時から10〜15名が集まり交流しています。参加を待っています。

喜寿の集いを
終えて

木々が色づき始め、風が肌寒く感じられる11月のはじめ、私達高8回卒業生が喜寿を祝って集うことができたことは最高の喜びだった。47名の同級生が全国各地から集まって来てくれた。会の初めに7年前の古稀の集い以来亡くなられた10名ほどの物故者に対し黙祷を捧げた。校歌斉唱から始まり久しぶりに会った友と心行くまで語り合った。毎年1月2日に行われてい

る新春の集いで顔を合わせている人たちは、顔も名前もわかっているが、出席された方で名前も顔も思い出せない人もいた。しかし、同じ同級生なので、すぐ打ち解けて親しくなった。会が盛り上がってきたところで、東京高8回末広会(8回卒の八は末が広がっている)エイト会の代表が会の活動状況を報告した。お楽しみ抽選会は賞品がたくさん出たので大いに盛り上がった。最後には全員が素晴らしい笑顔で記念写真に納まった。会の終わりには、次回開催の声も聞かれ、3年後の「傘寿の会」の検討をすることになった。余韻もあつてか、2次会、3次会へ流れていった。

牧田亘弘(高8回)

高10回有志懇親会

平成27年5月19日呉竹荘にて第2回の有志懇親会を新メンバーを含め、27名の参加で開催した。(案内送付者52名で出席率50%キープ)、前日までに3名のドタキャンがあり、これも歳のせいかと残念であったが校歌斉唱でスタートし、今後の行

同窓会専用電話・ファックス

☎/FAX 053-456-0662

Eメールアドレス hama24@shizuoka.email.ne.jp

※毎週火曜日午前10時〜12時までは事務員の徳永さんが対応。それ以外はファックス・メール又は、留守番電話にメッセージを録音して下さい。

英国語学研修報告



2014年7月26日(土)10時半集合。男子14名、女子14名、引率教師2名の合計30名は専用バスで浜松駅を出発しました。途中少し酔った生徒もありましたが、回復し元気よく中部国際空港から乗り継ぎの香港へ。香港では雨のため1時間程度の遅れがでしたが、現地時間6時にロンドンのヒースロー空港に到着。浜松を出てから27時間でした。

ガイドのアマンダさんと合流して浜松西高校のモデルとなったイートン校へ。(改修工事のため、残念ながら外からの見学)午後はいよいよカンタベリー街へ。生徒たちはホストファミリーの出迎えを受け、不安と希望を抱きながらそれぞれ別れていきました。

ホームステイ先からの初登校。徒歩、バス、一人で、ハウスマイトと一緒に方法は様々でしたが、全員遅れることなく登校しました。

研修4日目にはプレゼンの準備のため街に出てインタビューをしました。そろそろ日本食が恋しくなる頃、半分の生徒が日本食レストランに行きました。

研修12日目の夜は浜西ジャパンナイト。武道(剣道・空手・柔道)、歌とダンス、サブカルチャー、ソウラン節、落語、時代劇、書道、折り紙と会場全体が日本文化に触れ、大いに楽しみました。ジャパンナイト最高! (落語をやった川島くんは卒業式で特別賞をいただきました)

今回生徒たちは日本を、自分を見つめ直し、行く先々で異文化に触れ、多くのことを感じ、考えることができました。しかし、これで終わりではありません。やるべきことは、もっと多くのことを学び、日本を知り、自分自身を知り、世界を知り、今回の経験を日本で育てることです。我々の学びは第一歩を踏み出したばかりです。

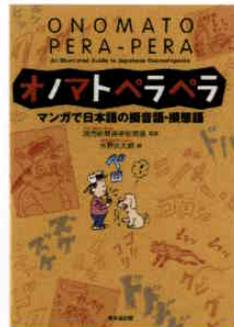
最後に英国語学研修は生徒たちにとって一生の記憶に残る得難い経験であったと思います。ご支援・ご協力に感謝致します。

新刊紹介

同窓生の著作です

「オノマトペラペラ」

水野良太郎 (高7回)



「ジャカルタ漁港物語」

折下 定夫 (高18回)

ジャカルタ漁港物語

ともに歩んだ40年

折下 定夫

Osamu Oriyoshi



「FAUSTUS」

大庭みさこ (高37回)

恩師訪問



高林 清和先生

Q…浜松西高校の最初の印象は？
A…私は昭和63年4月から平成14年3月までの14年間、浜松西高校の教壇に立ちました。

この高校の最初の印象は、とても素晴らしい生徒たちが揃っていることでした。一方で、受験や点数に縛られすぎることなく、生徒一人ひとりの素晴らしい資質を伸ばしてあげたいという思いを抱きました。

Q…勤務期間中の思い出は？
A…中高一貫校への移行を担当したことです。伝統ある本校の体制が変化することや受験や部活動への影響など、多方面からご心配の声を頂きましたが、個人的には全く問題ないと確信していました。

逆に素晴らしい生徒たちを6年間指導できることで、個々の生徒の可能性がより一層広がるのを感じていました。

Q…中等部で力を入れた教育は？
A…自分の思いを相手に伝える「表現力」と自分の本質と向き合う「探究力」の向上です。ともに将来社会に出てから立派な地位に立つであろう生徒たちにとって、必要な力だと感じました。そのため、日本や世界の偉人の名言や格言を丸暗記する時間をつくりました。今はその意味がわからなくても、将来必ずや偉人の言葉が自分自身を照らし出すとき

後記

「ごめんよ〜!今日は僕ばかりがしゃべって〜!」と、高林先生お気に入りの白ワインの力も手伝ってか、和やかな雰囲気では進みませんでした。当時の些細な出来事から日本の政治の話題まで、20年前に西高の教室で受けた「現代社会」や「政治経済」の授業の記憶が蘇ってきました。

先生からのおみやげは「平成6年度研修旅行報告書」。当時の自らのコメント欄を見て、「同みな赤面」「面白かった!」「つまんなかった!」その一行でも良い!とにかく記録に残すこと」が先生の目的だったとのこと。

高林先生は、平成24年3月に浜松湖東高校の校長職を最後に定年退職され、現在は静岡英和学院大学の入試広報課で勤めています。「君たちはこれから浜松を背負って立つ人間だから〜!」との激励に對して、我々も「先生!いつまでもお元気で!」と応じ、互いの再会を誓いつつ、宴はお開きとなりました。

平成27年5月吉日 吳竹荘にて

平成27年度 (平成27年4月進学) 入試結果概要

入試合格状況

	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	111	22	133	84	13	97	107	15	122
私立四大	594	95	689	479	58	537	499	63	562
国公立短大	9	0	9	1	0	1	0	1	1
管外大	3	0	3	3	1	4	0	0	0
各種専門学校	4	0	4	8	0	8	7	0	7

私立大学 (主な大学のみ)	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
慶應義塾大	7	2	9	9	6	15	8		8
早稲田大	15	1	16	20	2	22	21	3	24
明治大	26	3	29	19	2	21	15		15
立教大	14	2	16	8	2	10	4	1	5
法政大	15	3	18	15	3	18	16		16
同志社大	13	6	19	10	7	17	12	3	15
立命館大	43	6	49	39	4	43	32	7	39
関西学院大	2	7	9	2		2		1	1
関西大	3		3	6	2	8	6		6
近畿大	7	3	10	3		3	1	1	2
上智大				1		1		3	3
中央大	19	3	22	8	7	15	14	2	16
青山学院大	8	4	12	7	1	8	5	1	6
東京理科大	15	6	21	18	1	19	15	1	16
芝浦工大	13	4	17	8	1	9	5		5
東京農大	13	2	15	7	1	8	3	1	4
明治学院大	13		13	1		1	4	2	6
日本大	13	1	14	23	1	24	26	5	31
東洋大	12	4	16	6	2	8	4	1	5
駒澤大	8		8	2		2	10		10
専修大	6		6	5		5	12		12
常葉大	50		50	33	1	34	38	2	40
聖隷クリストファー大	18		18	13		13	20		20
南山大	24	2	26	19		19	10	3	13
名城大	22	8	30	14		14	4	2	6
中京大	11	5	16	20		20	13	1	14
愛知大	5		5	6		6	6		6
愛知学院大	2	2	4	6		6	1		1
藤田保健衛生大	6		6	3		3	3		3
酪農学園大	1		1	2		2			
自治医科大				1		1			
獨協大				2		2	3		3
文教大	2		2				2	4	6
学習院大	2		2				1		1
北里大	4	2	6	3		3	9		9
国際基督教大							3		3
順天堂大	1		1						
成城大	2	2	4						
帝京大				7		7	3		3
東海大	3	1	4	10		10	7	1	8
津田塾大							5		5
東京医科大									
東京女子大	1		1	2		2	4		4
日本女子大	3		3	4		4	2		2
東京都市大	2		2	4		4	1		1
神奈川大	6	1	7	4		4	5	1	6
岐阜聖徳学園大	1		1	3		3			
愛知医科大	3		3	1		1			
豊田工業大				1		1			
名古屋女子大	1		1				3		3
檀山女学園大	8		8				2		2
日本福祉大	1		1	11		11	1		1
京都産大				1		1		3	3
京都女子大	8		8	4	2	6	5	2	7
同志社女子大	8		8	1		1	4		4
龍谷大	3	2	5	3		3	2	1	3
関西外大				2		2	3		3
神戸女子大				2		2			
川崎医科大									
気象大学校				1		1			
防衛大学校									
防衛医科大				1	1	2			
海上保安大学校				1		1			
水産大学校	1		1						

国立大学 (管外大を含む)	平成27年度			平成26年度			平成25年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北見工業大	1		1						
北海道大				2		2	1	2	3
岩手大				1		1			
東北大	2		2	2		2	2	1	3
茨城大				1		1			
筑波大	1		1	1		1	2		2
宇都宮大									
埼玉大									
千葉大	4	2	6	2	1	3	4	1	5
お茶の水女子大				1		1	1		1
東京大				2		2	6		6
東京医科歯科大									
東京外国語大	2	1	3				1		1
東京学芸大	1		1	1		1	3		3
東京工業大	1	1	2	1		1			
東京海洋大	2	1	3	2		2	1		1
東京農工大				1		1			
一橋大	2		2		1	1	1		1
電気通信大									
横浜国立大	4	3	7	2		2	1	1	2
山形大	1		1						
福島大	1		1						
新潟大				1		1			
金沢大	1	1	2	1		1	1		1
福井大									
富山大		1	1						
山梨大	1		1	1	1	2	1		1
信州大	5		5	1		1	3		3
静岡大	17	2	19	11	2	13	15	2	17
浜松医大	6	2	8	5	1	6	10	1	11
愛知教育大							1		1
豊橋技術科学大	1		1						
名古屋大	7	2	9	12		12	7		7
名古屋工大	5	1	6	2		2	2		2
岐阜大	1		1	1		1	3		3
三重大				1		1	1		1
滋賀大	2		2				1		1
京都市大	3	3	1	1	2	2	2		2
京都工芸繊維大	1		1						
京都教育大							1		1
大阪大	1		1	2	1	3	3		3
大阪教育大							1		1
神戸大	3		3	2	2	4	1		1
奈良教育大									
奈良女子大									
岡山	1		1				1	1	1
広島大	1		1		1	1	1		1
鳥取大	1		1	1		1			
山口大	1	1	2	1		1	1		1
高知大								1	1
徳島大									
香川大		1	1						
九州大	3		3	2		2	2		2
佐賀大								1	1
長崎大							1		1
宮崎大					1	1	1		1
鹿児島大									
琉球大	1		1						
国際教養大				2		2	1		1
福島県立医科大		1	1						
埼玉県立大							1	1	1
前橋工科大				2		2	3	1	4
高崎経済大	1		1						
首都大東京	3	1	4	2		2	2		2
横浜市立大	2		2	1		1			
神奈川県立保健福祉大							1		1
都留文科大	2		2						
金沢美術工芸大									
石川県立				1		1			
静岡県立大	11	1	12	7		7	10	1	11
静岡文化芸大				1		1	2		2
愛知県立大							2		2
愛知県立芸術大							1		1
名古屋市立大									
福井県立大	1		1						
京都府立大	1	1	1	1		1			
京都市立芸術大									
大阪府立大							2		2
兵庫県立大	1		1				1		1
鳥取環境大				1		1			
岡山県立大				1		1	1		1
県立広島大					1	1			
広島市立大	1		1						
高知工科大									
北九州市立大	3		3						
九州歯科大				1		1			
名桜大	1		1						

※推薦・AO・補欠合格等を含みます。
 ※私立総合計欄は、表記以外のすべての私立大学合格を含みます。

西山賞受賞者

西山賞とは「全国レベルで特に優れた業績・功績を挙げた生徒」に対して、三部門別（文化芸術部門、スポーツ部門、善行部門）に同窓会から卒業時に授与されるものです。

中等部

▼文化芸術部門

中等部弦楽部(団体)

TBS「こども音楽コンクール」

東日本優秀演奏発表会

最優秀賞 全国大会(文部科学大臣奨励賞選考会)出場

鈴木 大達

平成24年 第56回日本学生科学賞 静岡県代表出品(静岡県教育長賞)

▼スポーツ部門

鈴木 大達

第45回全国中学校柔道大会 50kg級 5位

石原 真生子

第41回全日本中学校陸上競技選手権大会 女子200m 7位

第45回ジュニアオリンピック陸上競技 ABC女子4×100mリレー 7位

上競技

市川 陽就 山添 翔吾
 檀 佑次朗 中村 十悟
 米山 遼真 高部 裕嗣
 鈴木 蓮

第41回全国中学生テニス選手権大会 団体戦出場

鈴木 蓮

平成24年全国中学生テニス選手権大会 ダブルス ベスト16

第41回全国中学生テニス選手権大会 シングルス出場

佐々木 健人

平成24年第52回 全国中学校水泳競技大会

男子高飛込 29位 男子3m飛板飛込 22位

平成25年第53回 全国中学校水泳競技大会

男子高飛込 24位 男子3m飛板飛込 19位

平成26年第54回 全国中学校水泳競技大会

男子高飛込 19位 男子3m飛板飛込 12位

石丸 利恵

平成24年度全国選抜中学校テニス大会 出場

高等部

▼文化芸術部門

大川 七彩

平成25年度第35回全日本リコーダーコンテスト全国大会

高校ソロの部 銀賞

今尾 美遥

平成26年度第38回全国高等学校総合文化祭

美術・工芸部門 文化連盟賞

永田 真理奈

平成24年度第10回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

特選 金融広報中央委員会会長賞

平成25年度税に関する高校生の作文

国税庁長官賞

▼スポーツ部門

入谷 玲音 米倉 史博

平成25年度第25回全国高校選抜ボート競技大会

男子ダブルスカル 11位

平成26年度第62回全国高校総体ボート競技

男子ダブルスカル 6位入賞

入谷 玲音

平成26年度第69回国民体育大会ボート競技

男子ダブルスカル 準決勝進出

山本 紗弓

平成25年度第61回全国高校総体ボート競技 女子舵手付きクオドルプル 準々決勝進出

野崎 舞夏星

平成26年度第4回世界ジュニア相撲選手権大会

軽量級優勝 知事顕彰表彰

「平成28年度静岡県立浜松西高等学校・同中等部の入学者選抜」について(予定)

	中等部	高等部
募集定員	160名(4学級)	80名程度(2学級)
選抜資料	総合適性検査、作文、面接、調査書等	調査書、学力検査、面接、実技検査及び作文(実技検査及び作文については、「体育的活動」に関する裁量枠希望者のみ)
実施期日	平成28年1月9日(土)総合適性検査、作文	平成28年3月3日(木)学力検査、作文(作文については上記希望者のみ)
	平成28年1月10日(日)面接	平成28年3月4日(金)面接、実技検査(実技検査については上記希望者のみ)

※お知り合いの方々にお知らせください。

編集後記

◆先輩方と楽しく雑談しながらの編集作業、あつという間でした。(Y)

◆初めて参加させてもらいました。今年の会報を読むのがさらに楽しみです。(F)

◆卒業してだいぶたって、母校の編集作業に關われて光栄でした。(T)

◆会報は西高同窓生の「軌跡」。卒業20年目の私は、まだまだ道半ばです。(O)

◆編集委員会に興味のある方、どうぞ同窓会事務局までご連絡ください。(C)

会報編集委員

同窓会副会長 左右田丈夫(中19回)
 編集委員長 近藤 哲哉(高9回)
 編集委員長 岩淵 千江(高39回)
 編集委員長 大隅 康人(高40回)
 編集委員長 山本 優美(高40回)
 編集委員長 落合 優(高46回)
 原野扶友美(高46回)
 安田 恵(高47回)
 小杉 哲康(高47回)
 岡田 佳久(高48回)